

昭和村統合小中学校推進協議会 地域説明会

(1) 実施概要

区長会議

	実施日	時間	場所	参加者人数	協議会委員
1	5月12日(火)	18:30~	昭和村コミュニティセンター	23人	9人

地域説明会

	実施日	時間	場所	参加者人数	協議会委員
1	5月14日(木)	18:30~	大河原小学校	12人	11人
2	5月15日(金)	18:30~	東小学校	4人	12人
3	5月18日(月)	18:30~	南小学校	15人	11人
4	5月19日(火)	18:30~	昭和中学校	13人	10人
	合計			44人	

(2) 区長会議での主な質問

- Q 1 東小学校の校庭(敷地内)に東京電力のずい道が通っていたかと思うが、位置などは把握されているか。
- A 1 東小学校校舎の西側とプールの間はずい道が通っていることを認識している。
- Q 2 建設場所への住民の関心は高いが、「どのような学校にするか」も非常に重要である。村としてどのような学校にしたいのか、義務教育学校の良さは何かを考え、並行して準備を進めてほしい。事務局に指導主事を置くなどの体制が必要ではないか。
- A 2 推進協議会では「どのような学校にすべきか」も議論している。特に、発達段階で重要な小学5年生から中学1年生にあたる「中期」の指導計画が重要と考えている。(広報:第6回昭和村統合小中学校推進協議会(2025.10.10)にて、基本構想(案):第1章 昭和村の義務教育学校による小中一貫教育の推進、第2章 義務教育学校の特徴、第5章 昭

和村が目指す義務教育学校等を掲載している)。

Q 3 評価項目の「安全な通学経路」の中に、防犯は含まれているか。学校周辺に危険な空き家等があると心配であるため、様々な点に配慮して進めてほしい。

A 3 登下校の安全性は最も重要視している。空き家や熊被害の懸念も踏まえ、スクールバスの運行や道路状況を考慮して計画を進める。

(3) 地域説明会での主な質問

■大河原小での質問

Q 4 保育園を併設する考えはあるか。

A 4 今回の計画では想定していない。予算の制約もあり、まずは学校建設を第一に進めているが、二次的に追加できればと考えている。

Q 5 学童保育はどのようになるのか。

A 5 推進協議会でも重要な論点として議論している。学校に併設した場合の送迎負担の問題があるため、既存施設の活用も含めて検討中である。候補地の計画図には学童の想定場所は確保しているが、学童の性質を慎重に協議し最適な運営形態を引き続き協議する。

Q 6 総合運動公園が候補地から除外された理由は何か。周辺の村有林を活用するという考えはなかったのか。

A 6 総合運動公園周辺の土地の多くは、開発が制限されている「保安林」である。開発可能な「普通林」は、絞り込み前の候補地として検討した区域のみだったため、他の場所の活用はできなかった。

Q 7 鎌沢地区の候補地東側は土砂災害ハザードマップの区域に含まれているが、災害時の安全性や送迎ルートは想定されているか。

A 7 指摘の箇所は神名沢に係る土石流警戒区域だが、沢の対策工事は完了しており、基本的には安全であると認識している。区域指定は機械的にされている側面もあるが、引き続き安全性は注視していく。

■東小での質問

Q 8 5月29日に1箇所に絞り、7月に説明会を開くとのことだが、そこで決定となるのか。もしその候補地に批判が出た場合、また後戻りするのではないかと懸念している。

A 8 7月の説明会は、推進協議会が絞り込んだ1案を住民に示し、意見を伺う場である。その結果を踏まえて基本構想を策定し、村長提案、議会付議という正式な手続きに進む。1箇所に絞った際には、その選定理由について説明責任を果たせるようにする。数字では表せない点（既存校舎改修時の児童への影響、新設ではその負担がないメリットなど）も再度協議し、後戻りがないように議論を尽くす。

■南小での質問

Q 9 総合福祉センター東側は前回の候補地になかったが、今回入った経緯は何か。また、保護者の送迎のしやすさは、どの評価項目に含まれるか。

A 9 前回までの候補地に加え、新たに現在の推進委員から候補地を募り、公共施設が近く落ち着いた環境であるとの意見があり、候補地に追加された。送迎のしやすさについては、評価項目3番「通学路の安全性」等に含まれる。

Q 10 既存校舎を活用する場合、どの程度の活用を想定しているのか。また、耐用年数と費用は新築とどう違うか。

A 10 既存校舎は耐震補強や長寿命化工事等を行い、工事後約30年の使用を想定。工事期間は約2年。新築校舎は、40年後の長寿命化改修により約70年の使用が可能となる。

Q 11 新しい候補地（鎌沢など）に決定した場合、用地は確実に確保できるのか。

A 11 用地は確保されていない。地権者には協力をお願いしていくことになる。

Q 12 地震が心配、地盤調査は実施したのか。また、議員も住民と同じ程度

の情報しか知らない状況は不安である。11月の村議選後に新しい議員に諮るべきではないか。

A12 地盤の詳細調査は用地決定後となる。
推進協議会になってからは、月1回の議会全員協議会において、推進協議会の協議内容を報告・説明しており、使用した資料等は村のホームページにも載せている。「広報しようわ」にも協議内容を掲載しているので、知っていただいていると思っている。

Q13 用地面積を減らすことで、費用を削減できる可能性はあるか。

A13 用地費は1坪1万円で算出しており、面積を減らしても費用全体への影響は限定的と考える。安全性を確保しつつ、最小限の用地で最大の効果が得られるよう計画したい。

Q14 ロードマップは当初計画より遅れている。短縮はできないか。また、既存校舎改修は予算超過する例が多いと聞かすが、そのリスクは試算に含まれているか。

A14 提示したロードマップは最短のスケジュールである。設計や建設に各1~2年、大規模工事であるため建設に2年は要すると見込んでいる。費用試算には、用地買収、解体、水路付替など、現時点で想定される経費を計上している。

Q15 建設費用の概算だけでなく、事業費の上限額を先に示すべきではないか。

A15 場所が決定し、基本計画を策定する段階で、より詳細な事業費を提示することになる。現段階での上限額の明示は困難である。

■昭和中での質問

Q16 建設費について、将来的なインフラ資材等の価格が高騰している中、提示された金額から高騰するリスクをどのように考えているか。

A16 建設費の価格高騰については十分に懸念している。直近の見直し段階でも最低で1割程度は上がる想定をしている。今回提示した事業費は、現時点で各

候補地を比較検討するための指標としてご理解いただきたい。

Q17 仮に南小学校が建設候補地に決定し、現在の敷地で建て替えとなった場合、工事期間中の児童の学習場所や運動会等の行事への影響はどのようなのか。

A17 既存の校舎を解体し建設する工事でも、既存校舎の活用し長寿命化工事を行っていく場合であっても、ともに約2年間かかると想定している。その期間は別の学校に移動して授業を受けていただくことになる。移動にともなう環境変化や児童に与える影響（ストレス等）なども踏まえた上で、候補地を選ぶ要素としていく。

Q18 鎌沢地区が候補地になった場合、現在住んでいる家から道が分断され、生活道路から離れてしまうなどの影響が出る。周辺道路の整備費用等は計画に含まれているのか。

A18 県道へのアクセスが懸念事項であることは認識しており、進入路の整備費用等も現段階の試算金額に含めている。周辺整備の必要性も含め、今回いただいたご意見を推進協議会で重く受け止め、しっかりと検討する。

Q19 建設（鎌沢）に伴って生活環境がかなり変わることが予想される。その場合、代替となるような土地を用意していただけるのか。

A19 推進協議会の皆様と相談しながら検討させていただきたい。今すぐ明確な答えは出せないが、重要な視点として承った。